

生誕 90 年 & 没後 20 年・藤沢周平 5月19日～7月19日

膨大な時代劇作品群を分類すると

藤沢周平は、昭和30年代より業界紙の記者を兼務しながら執筆活動に入り、昭和46年（1971年）に第38回オール讀物新人賞、翌年に第69回直木賞を受賞し、以降多くの時代劇作品を残しました。その作品群は膨大なだけに作者の置かれた状況により作品傾向が分かれています。

[昭和30・40年代 灰色の時代]

妻との死別、幼子の養育、病弱な母親の介護などが背景にあり、初期の作品群は悲劇的で暗い雰囲気のもの書かれています。

（この時代の代表作）

溟い海（第38回オール讀物新人賞受賞作品） ※「暗殺の年輪」（文春文庫）に所蔵

暗殺の年輪（第69回直木賞）

逆軍の旗

闇の梯子

☒ ※「暗殺の年輪」（文春文庫）に所蔵

[昭和 50 年代 転機]

業界紙記者を辞し、先に再婚したこともあり、生活の安定が徐々に確立しました。昭和 51 年に発表された「用心棒日月抄」を転機として作品にユーモアの要素が入るようになりました。

（この時代の代表作）

用心棒日月抄

竹光始末

隠し剣 孤影抄

隠し剣 秋風抄

[昭和 60 年代以降 円熟期 幅広い領域]

数々の作品を生み出すなかで昭和61年に第20回吉川英治文学賞、平成元年に第40回芸術選奨、第37回菊池寛賞を受賞するなど円熟期を迎えます。町人もの、ハードボイル風長編作品など作品領域がさらに広がりをみせています。

(この時代の代表作)

白き瓶 (第20回吉川英治文学賞)

時雨のみち

霜の朝

闇の傀儡師

漆黒の霧の中で

たそがれ清兵衛

※以上の作品は全て貸出可能です ([ブックリストはこちらです](#))。

